



## 2017年8月8日(火)第1740回 柏南ロータリークラブ 週報

2017-2018年度会長：小林 亘 幹事：小林義和

## 会長挨拶

先週は納涼例会、大変お疲れ様でした。あれだけの事がスムーズに出来てしまうというのは、このクラブの底力のようなものを改めて感じましたし、そして会長の私は何もしていないのに、大きな自信を付けさせて頂いたような気持であります。色々な意味で皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

抽選会も盛り上がったようですし、ダンスもなかなか良かったのかなと思います。

九州北部豪雨の義捐金も予定額を上回り、44,831円集まりました。チャリティコンサートのチケットも何枚か売れたようです。

また、親睦委員長は早々に振り返りの作業に入って、来年に向けての改善点の洗い出しをしてきています。重ね重ねお疲れ様です。

5日の土曜日に奉仕プロジェクト委員会セミナーに7名で参加をして来ました。在日スリランカ大使の講演があり、先に決めた通り義捐金を渡して来ました。

いよいよ次は9月1日のチャリティコンサートが控えております。これもまた大きなイベントになるわけですが、そして超一流アーティストをお迎えしての演奏会でありますから微に入り細に入り神経を遣う様な場面もあるでしょうし、大変だと思っておりますが、もう残り3週間です。よろしくお願ひします。

今日はこのあと卓話をして頂く為にTTC、吉田記念テニス研修センターと言ったらすぐに解って頂けるのかなと思いますが、高橋様と板谷様がお越し頂いております。

今年度、社会奉仕のテーマとして青少年健全育成を掲げている訳ですが、何か繋がるものがあるのではないかと考えているところであります。



## 本日の卓話 公益財団法人吉田記念テニス研修センター所長 高橋 剛さん

## 青少年の健全育成について

## TTCの設立経緯

吉田家420余年に亘る43代目当主吉田宗弘氏が、健全な青少年の育成と健康な国民を作っていくことを目的に1990年に設立された。前進は、柏ローンテニスクラブを1975年にスタートしたものである。

吉田家は、旧柏ゴルフクラブであったり、昭和初期から柏競馬場・東葛飾高校の創設・柏駅の建設など、街づくり・人づくり・教育に早くから取り組まれた歴史が今につながっている。2011年、当時民主党政権の目玉政策であった公務員の天下り防止を目的に一般財団の公益財団法人移行制度を進めた。

大きくは、健康な国民を作ることを目的に、また将来少子高齢化が進む中日本の国家予算120兆円の内医療費が42兆円と30%を占める。健康長寿の街づくりが大きな課題である。

千葉県、公益財団移行はこの麗澤大学・モラロジー研究所が第一号で承認となった。

TTCは第二号ながら、スポーツ界では初のケースであった。その後、日本テニス協会を始め多くのスポーツ団体が公益財団移行を果たした。大きなニュースとなったのは、日本相撲協会が公益法人移行の際、ブラックマネーの問題で移行が見送られた事例もあった。

TTCでは、学校教育と家庭教育の狭間で、人として身に付けなければいけない事を徹底して進めている。

TTCの設立に当たっては、4つのボール(ロゴマーク)をコンセプトに進めた。

・テニスの普及 ・強化(ジュニア・プロ・車いす選手) ・指導者育成 ・医科学のサポートを軸にすすめている。

①テニスの普及・・・老若男女多くの人にテニスを広め健康な国民を作っていく。

今スポーツ界の低年齢化が進んでいる。人間は5～8歳で運動神経が開花すると言われている。ジュニアゴルフや水泳・体操・卓球など様々なスポーツで10代の選手が世界で戦う時代になっている。TTCは、1歳11ヶ月でコートに立った子供がいる。テニスだけではなく、幼少期から色々なスポーツに触れ体験することでコーディネーション能力が開花してくる。今の時代、公園でボール遊びや遊具の使用が禁止されたり、どんどん子供の運動機会を奪っている。健全な青少年は健全な肉体と精神からと位置付けて指導している。例えば、皆さんのご家庭で子供やお孫さんが朝起きてきたら「おはよう」とあいさつすると思う。しかし、小笠原礼法では、子供ながら自我が目覚める10歳位になったら親も目上の人です。目上の人に対しては「おはようございます」と身に付けさせることで目上の人を敬う心を養うよう勧めている。学校で教えますか? 家庭で教えていますか? テニス競技は、ネットを扶んでお互い挨拶をします。握手をします。握手は互いの励ましや敬意ですが、相手を信頼していますよと言う挨拶なんです。スポーツを通して、何故挨拶が大切なのかを教えています。挨拶をする・時間を守る・体や物を大切に、大人になっても人としての基本を小さい時から徹底して指導しています。勝つことではありません。

TTCでは、4年連続全日本のジュニアチャンピオンを輩出しています。今は、10代でプロ転向する選手も多く出てきています。10代で大人の世界に出て勝負事もさること乍ら

人としての立ち振る舞いや接し方など競技以上に指導することが大切です。

大人のテニスでは、最近楽楽テニスと称して、60～70歳代で初めてラケットを握りプレーをすることを勧めております。レギュラーボールの空気圧を少し落とす事で、楽にラリーが続くテニスができます。ある人は、楽楽テニスを始めたお陰で、散歩もままならない生活からテニスが楽しくジョギングをするまでに元気になられた話を聞きます。正に、医療費の削減の典型的な事例であり、我々にとっては嬉しい事例です。

②選手の強化には、ジュニアであったり、プロ選手・車いす選手と多様です。

プロ選手では、先日トルコのアンタルヤOpenで日本人選手・杉田選手が優勝しました。錦織選手に次ぐ二番目の日本人選手です。彼は、小学校時代は仙台で過ごし、中学時代は松葉町に移住しテニスを極めていった。数年、仙台から通う日々が彼にとっては大きな精神の鍛錬であったようです。小さい頃の経験であったり、強い意志であったりと言うのは大人になっても生きる経験です。

強い選手を育てるだけではありません。TTCで学び米国のジョージア大学に進んだ女子が居ます。インターハイチャンピオンで将来有望な選手でしたが、全く別な環境を求め

米国に渡った。4年の全米大学選手権(LCAA)で優勝メンバーとなったのですが、それだけではなかった。決勝で、あろうことか審判がカウントを間違えてコール(自身に有利に)してしまった。その選手は、勇気を持って試合を止め審判に間違っていることを伝えた。

大学側は驚愕したが、幸いにフルセットの末優勝を勝ち取った。後に、全米中話題となり彼女はLCAAの全競技者12万人の代表としてスポーツマンシップ賞を受賞した。

日本人では初だったらしいが、後のインタビューでは、TTCで養った精神があったから出来たことと。当たり前のことをしただけと言ったことが全米で話題になったらしい。

何をもって、健全な青少年育成なのか、強さだけでは無く人としての大切なことを伝え

て頂いた事例です。

車いすテニスでは、皆様ご存じかと思いますが、ここ麗澤高校から麗澤大学・大学職員としてプロになった国枝選手が居ます。小学校6年で発病し車いす生活を余儀なくされ

スポーツとは無縁の絶望の世界であった彼が、母の勧めでテニスに出会い、16歳で本格的にテニスプレーヤーを目指し始めた。世界のトップを知ることを望み全豪openを単身見に行ったことをキッカケに日本のトップ選手に駆け上がった。

朝、登校前の5:30から毎日練習を積み、毎日家から学校までの一般道を物ともせず通学イコール・チアワークの鍛錬を続け、やがて世界一のチアワークの基礎となった。

段差・坂道・雨・風・暑さ・寒さ 全てが試合に必要な根気と平常心を養って行った。

普段の生活で身に着けたものは不変である。10年以上世界のトップでプレーする中で、一度たりとも審判への侮辱・判定への不満・物への八つ当たりなど見たことが無い。

強靱な精神力の賜物と感服する。子供達には、身近な処に世界最高のプレーヤーとしての試合を見るよう最高の手本だと教えている。世界のロジャー・フェデラー曰く、「日本には錦織以上の選手がいる。国枝慎吾が居るじゃないか」と言わせるほど、人としての魅力や世界に誇れるプレーヤーとして挙げている。

③指導者の育成を目的に、一県一施設(地域トレセン)を目標にスタートした。どんな競技もそうだが、いい指導者にいい選手は育つ。指導者がいかに大切かを30年以上前から唱え

実践している。また、早くからトレーナーの必要性を実践している。日本のトップに留まらず、世界的な指導者を呼び全国の地域協会を行脚し全国のテニス指導者にたいして、指導力の強化を薦めてきた。毎回、500人近い指導者の為の指導を続けている。

この時も、テニスの技術的な指導だけでは無く、子供達が自ら考え行動する力を引き出している。今の子供は、ゲーム感覚であったり人に言われて行動する指示待ちでは無く、自らの判断・思考で行動したり試合をしたりすることが将来の人間形成に役立つ。

④最後に、医科学からのサポートを上げている。先に述べたように、10代でプロになったり、低年齢からの始動が多くなる現代、体が出来上がらないうちから結果を求めてしまう。やがて、怪我や精神疾患でスピアウトする。将来有望な選手が、いろいろなケースで将来の芽を摘むことは大人の責任である。30年以上前から、医科学の助言・知識・経験・指導が必要なのである。これからの時代を担う子供達を、健全な状態(体と心)で成長させることが我々の務めである。

また、障がい者スポーツの指導としても、多くのデータを保有し、トレーニングに関しての教本作り・指導を全国は勿論諸外国へも発信している。昨年、ナショナルトレセンの一部として競技別第二トレセンとしてTTCが指名を受け運営している。今や、データの分析・活用は当たり前。それを如何に、次世代育成に生かして行くか我々の責務である。

これら、4つのコンセプトを説明して来たが共通して言えることは、大よそ30年前から

日本のテニス界にこれからの時代を担う子供達をどう育てて行くか、指導者であったり、環境づくりであったり、精神力・肉体を健全な方向に導くことを目的としてきた。

公益財団法人の大きな特徴はもう一つある。地域の発展である。TTCは年間100を超えるイベント・大会を実施している。

4月は国際大会であるITF柏国際Openを開催。競技力の向上と共に、地域の方々と一体となった協力や体制が必要であり、地域振興の一つと考える。ここから、杉田選手も世界で活躍するステップとして優勝し飛び出していった。

5月は、全国の12歳以下・14歳以下の全国選抜ジュニアを開催している。錦織選手も12以下で優勝し、その後14歳で盛田ファンドで米国に渡った。多くの国内トップ選手を輩出し

た大きな大会をここ柏で40年になる。

夏には、関東近県のジュニア選手12歳から18歳以下を集め4週間に亘って開催している。夏休みの遊びたい時期に大会を続ける意義は、正にジュニアの健全育成と言える。

9月には、柏すぽ一つフェスティバルを開催。テニスだけではなく、あらゆるスポーツ 野球・サッカー・バスケット・バレー・相撲・ダンス・空手・ボルダリングなど、普段 体験出来ないスポーツを体験して貰うイベントとしては柏市も共催として支援頂いている。

11月には、車いすテニスの国際最高峰であるマスターズを開催している。近隣の小学校・ 中学校を招待し、障がい者スポーツと触れ合い理解する機会を設けている。非常に大きな 意義のある大会である。2020年を支える選手の競技力向上と、大会を支える一役としてジュ ニア選手にボールパーソンをやらせてもらっている。正に、障がい者スポーツとの共存協力が 健全なジュニアを育てる一因でもある。

12月には、24日から大晦日に掛けて「ピーナッツ杯」を40年に亘り開催している。

一大会としては、2000人を超える参加者がいるのは国内最大であり、年末に唯一の大会 として子供達の大きな目標として健全化に大いに貢献している。

それ以外では、2020年東京オリンピック、パラリンピックを視野に、今年柏市と協力し 市内小中学校62校に対し「障がい者スポーツとの触れ合い授業」を展開し て行く。障がい者を正しく理解することから始める。

柏南ロータリークラブさんが、永年進めてきた青少年の健全育成に共感 する我々として

是非、今後共同を強く願い講話を終わります。



### お祝い事

### ニコニコ

会員誕生日：	山崎康弘	山崎康弘	山口修代
	山口修代	ワンコインニコニコ	
ご家族誕生日：	岡田勝久	4,	510円



### ローターの豆知識

#### 「四つのテスト」の解釈

「事業を繁栄に導くための四通りの基準」 ならば当然“Four-Way Tests”と複数 形になります。これが単数形なのは事業 を繁栄に導くためには、四通りの基準を 一つずつクリアすればいいのではなく、 四つ纏めたものを一つの基準として、そ のすべてをクリアしなければならぬ ことを意味します。

### 例会報告

例会数/1740回 例会日/8月8日(火)

出席率/71.4% 点 鐘/12:30

場 所/キャンパスプラザ

ゲスト/高橋 剛さん 板谷智美さん

本日の出席会員/34名中23名) 浅野 繁・池田

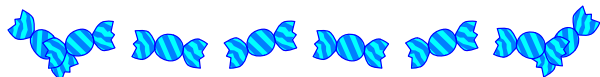
孝・今井 昇・大内 啓・片岡達生・小林 亘・

小林義和・小高 潔・斉藤由紀・關口和行・竹村

隆一郎・田中 清・妻島不三二・戸部謹爾・友野

俊政・猫田岳治・服部秀雄・宮 寛・森 秀樹・

山崎康弘・山口修代



例会日/毎週火曜日(12:30~13:30)

例会場/廣池学園キャンパスプラザ

TEL/04-7173-3558 FAX/04-7173-3550

柏南RC事務局

〒270-0011柏市東上町7-18 柏商工会議所505

TEL/04-7166-3963 FAX 04-7186-6255

E-mail/ckmrc@io.ocn.ne.jp

HP/http://kashiwa-minami.rid2790.org/